



全国リーエッセー  
岐阜県

**活発な取り組み**  
学生のころからあこがれていたこの診療所に、私は今年、医師七年目にして、赴任した。赴任してみると、保健福祉分野への取り組みは予想以上に活発だった。先の掛け声は、初代院長の中野重男先生の言葉で、現在にも予防重視の伝統が脈々と受け継がれている。

「予防を主とし、治療を従とする」。こんな掛け声の下、保健福祉分野の活動に積極的に取り組んできた診療所がある。それが郡上市地域医療センター(国保和良(わら)診療所(旧国保和良病院)だ。二〇〇〇年には旧和良村は男性長寿全国一位に輝き、注目も集めた。

# 予防重視の伝統受け継ぐ

この地域は、脳卒中中の罹患率(率)と妊婦の死亡率が高いことが課題だった。ここで健康づくりの一端をなし、効果を挙げた。通常ならば三日で終わ

せるところを十カ月かけて行っている。一日の受診者を十人前後に限定し、一人一人に時間をかけて丁寧に説明する。受診率も63%と比較的高い。

また、この地方で「お元ですか」という意味の「まめなかな」という言葉から名付けられた「まめなかな和良プラン21」という健康計画を策定。これを基に、地域住民の代表である健康推進委員が月に一度集まり、住民参加型の健康づくりのマネジメントも行っている。

また、この地方で「お元ですか」という意味の「まめなかな」という言葉から名付けられた「まめなかな和良プラン21」という健康計画を策定。これを基に、地域住民の代表である健康推進委員が月に一度集まり、住民参加型の健康づくりのマネジメントも行っている。

最先端医療は都市部でしか受けられない、というイメージが一般の人にはあるかもしれない。しかし、現在は情報技術(IT)が発達し、最新の文献や情報を、地域にいてもインターネットを通じていつでも手に入れることができる。また、院長を中心に患者さん一人一人に対する活発な検討も行われている。「見た目はどかな田舎だが、さまざまな可能性が地域医療には秘められている」という確かな手応えを、赴任したばかりの私だけでなく、研修に来た数多くの医学生、研修医たちも目の当たりにしたことだろう。

ひろせ ひでお  
**広瀬 英生** 24期生2001年卒



医師全員で患者について検討し、治療方針などを決める

## 郡上市地域医療センター-国保和良診療所

【私の勤務地】7月までは35床の病院で、和良町の2200人を対象人口としていたが、地域の実情に合わせ、8月からは和良診療所としてスタートした。また、7町村が合併してできた郡上市にある5つの診療所を統括する郡上市地域医療センターにもなり、地域医療の幅広い活用を目指していく。

### 理想的なモデル

和良地域もほかの多くの地域と同様、〇四年に合併して郡上市となった。診療所も元は国保和良病院という名称だったが、今年八月に郡上市地域医療センター(国保和良診療所)になった。今後は「郡上市地域医療センター」として、郡上市の地域医療

全体を視野に入れた活動も行う予定である。地域医療の魅力として、「地域のおじいさんおばあさんと触れ合い、茶飲み話に花を咲かせよう」というのも、一つの大事な要素であると思う。しかし、地域医療は集団という枠の中とてらえることのできる保健福祉医療連携においても、大変理想的なモデルなのだ。

「見た目はどかな田舎だが、さまざまな可能性が地域医療には秘められている」という確かな手応えを、赴任したばかりの私だけでなく、研修に来た数多くの医学生、研修医たちも目の当たりにしたことだろう。

「」として、郡上市の地域医療

(次回予定は山梨県)